

平成29年度第5回登別市教育委員会会議録

日 時 平成29年8月24日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 小会議室

第5回 教育委員会議事日程

- 1 日 時 平成29年8月24日(木) 午後4時30分
- 2 場 所 登別市民会館 小会議室
- 3 議 案 報告第5号 平成29年度教科用図書第10採択地区教育委員会協議会採択結果について
- 4 情報提供
 1. ALT新規招致者の紹介について
 2. 室蘭信用金庫創立100周年記念寄附事業「移動図書館車『こぐま号』リニューアル記念名前・ぬりえコンテスト」の結果報告について
 3. 市民スポーツ・健康フェスティバルの開催について
 4. 2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業小椋久美子トークショー&実技指導について
 5. 文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)の開催について
 6. 夏休み中における休校日導入の検討について
 7. 夏休みの学校図書館利用状況について
- 5 情報交換
 1. 平成29年度北海道都市教育委員会連絡協議会分散会での情報交換事項について

6 出席者

(教育委員会5名)

教育長	武 田	博
委員	垣 内	登紀子
委員	森 口	達
委員	赤 井	秀 輝
委員	堅 田	裕

(事務局9名)

教育部長	佐 藤	史 彦
教育部参与	野 崎	均
教育部次長	橋 場	太
総務部グループ建築主幹	出 口	利 美
学校教育グループ総括主幹	田 中	道 郎
学校教育グループ学務主幹	小野島	晶
社会教育グループ総括主幹	安 部	直 也
学校給食センター長	小 森	仁
図書館長	綿 貫	亨

- 武田教育長** それでは、本日の委員会は、5名全員が出席されておりますので、有効に成立していることをご報告します。これより、平成29年度第5回教育委員会を開催します。はじめにALTの紹介からお願いします。
- 田中学校教育グループ総括主幹** 会議の冒頭ですが、新規ALTの紹介をさせていただきます。6月の教育委員会で新規のALTの紹介をいたしました。7月26日と8月2日に着任になりましたので自己紹介をさせます。
- マージー** 初めまして、リー・マージョネット・エーと申します。マージーと呼んでください。アメリカから来た新しいALTです。よろしくお願いします。
- コージ** 初めまして、ウメザワ・コージと申します。カナダのトロントから来ました。よろしくお願いします。
- 田中総括主幹** 二人とも初来日でコージは一人暮らしの経験がありますが、ほとんど独立して生活するのも初めてのようです。コージの方は名前のおりお父さんが日本人で、おじいちゃんが札幌出身だそうで、北海道にルーツがあるということで縁を感じるような経歴を持っています。今週早速、地獄祭りに行きますので、まちで見かけましたら声をかけてください。よろしくお願いします。
- 武田教育長** それでは始めます。本日の議事は、報告1件になります。報告第5号「平成29年度教科用図書第10採択地区教育委員会協議会採択結果について」事務局から説明をお願いします。
- 田中総括主幹** 報告第5号は、現行の小学校における「道徳の時間」が平成30年度から「特別の教科 道徳」として教科化されることに伴って、委嘱された調査委員が6月30日から7月13日までの間に選定作業を行い、7月20日に協議会が使用する教科書の決定を行いましたので報告するものです。採択された教科書は、1ページに記載のとおり「光村図書出版」のもので、採択理由は2ページになります。内容、構成等がバランスよく編さんされていること。発問の例示、展開内容が整理されていること。振り返りが充実していること。現代の課題が他社より多く掲載されている点が評価されたものです。なお、第10採択地区の構成は室蘭市と苫小牧市を除く管内2市7町からなり、選定対象は8社の教科書からとなっております。お手元に1年から6年までの選定された教科書を置きましたので目を通していただければと思います。以上、報告といたします。
- 武田教育長** ただ今報告第5号について説明がありましたが、ご質疑ございませんか。2市7町の共同採択ということですが、意見交換のうえ決定されたとい

うことをございます。少しご覧ください。

○森口委員 7社ですか。

○田中総括主幹 8社の中から選定されたということです。

○武田教育長 初めての教科書ということでずいぶん注目は浴びておりますけども協議会の中ではそれぞれ意見交換をしながら全員一致で決めたということをございます。また、このことはホームページでも掲載することになっていますね。事務局の白老町から。

○田中総括主幹 はい。今回は白老町が事務局になっています。

○武田教育長 そこから引っ張っていけるのかなと。各市町でも掲載する必要があるのですか。

○田中総括主幹 最終的には各市町がホームページで公開するような形になります。

○武田教育長 そのようなことです。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり。)

○武田教育長 それでは、報告第5号については終了します。以上で本日の議事は終了しましたが、その他、事務局から情報提供などありましたらお願いします。情報提供案件7件出ておりますけども順番にお願いします。

【情報提供案件】

○綿貫図書館長 この度、室蘭信用金庫から創立100周年記念寄附事業といたしまして「移動図書館車『こぐま号』リニューアル記念なまえ・ぬりえコンテスト」を実施いたしましたので、その結果を報告させていただきます。お手元の用紙を室蘭信用金庫の支店で7月4日から8月18日まで配布いたしまして、市内在住の小学校就学前のお子様に対して、日本工学院にデザインしていただきましたキャラクターにクレヨン等でぬり絵をしていただいて提出していただきました。応募人数は183名、内訳は室蘭信用金庫の支店で127名、図書館で56名の応募がありました。応募いただいた方に対しては三菱の12色入りの色鉛筆とクリアファイル、ボールペンを差し上げました。今後は5点を選考いたしまして優秀賞と努力賞を決めることになっております。選考は9月中旬を予定しております。以上であります。

○安部社会教育グループ総括主幹 社会教育グループから3件の情報提供をさせていただきます。資料1ページになります。市民スポーツ・健康フェスティバルの開催についてでございます。例年、関係団体と連携いたしまして実施しております市民

スポーツ・健康フェスティバルにつきまして、今年は10月1日月曜日に岡志別の森運動公園と市民プールにおきまして記載されている内容で実施をいたします。なお、後程説明させていただきますが、今年につきましては総合体育館で「2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業」を、昨年度千葉真子さんをお招きした事業になりますが、これを同日に開催することにしております。

続きまして資料2ページになります。「文化芸術による子供の育成事業の開催について」でございます。それと本日配布しております資料も一緒にご覧ください。こちらの方は昨年度能楽鑑賞、市民会館大ホールで実施をいたしました文化庁の事業になります。今年度につきましては劇団前進座におきまして古典落語を題材としたオリジナルの芝居・演劇となっております。9月25日月曜日に市民会館大ホールにおきまして市内小学校6年生をメインに教育関係者、保護者、一般の方を対象としまして実施を予定しております。なお、申請の代表校となっております幌別西小学校の方で6月にワークショップを実施しております。9月25日の当日に西小学校の代表3名に実際に舞台に参加していただくことになっております。今日配布しておりますチラシの方に整理券を付けさせていただいておりますので、委員の皆様も是非鑑賞いただければと思います。

続きまして本日配布の資料になりますが、「2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業について」でございます。先ほど若干触れましたが、昨年度マラソンの千葉真子さんを招いた事業になります。2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を契機としまして、子ども達の夢を育み本市のスポーツの活性化を図ることを目的とした事業でございます。今年度につきましてはチラシにありますように北京オリンピック日本代表のオグシオの小椋久美子さんを講師としてお招きしトークショーと実技指導をしていただくことにしています。開催日は10月1日になります。なお、実施にあたりまして室蘭地区バドミントン協会と登別市体育協会の協力をいただきながら現在準備を進めておりまして、部活動の経験者は勿論のこと一般の方まで幅広く参加者を多く募りまして開催することを想定しております。以上でございます。

○田中総括主幹 はい。学校教育グループです。「夏休み中における休校日導入の検討について」ということで資料は4ページと5ページになります。既に7月下旬に札幌市と伊達市が教員の長時間労働の改善と休暇取得の一環として、8月10日から15日までの間を休校日とする報道がありました。今年は祝日の山の日と土・日

で3連休となりまして、前後の10日、14・15日を休校日で6連休まで可能ということで、実態としては各学校に設定をまかせるという内容の報道でした。本市としても長時間労働の改善は勿論のこと、教育局も特に教頭職の業務の負担軽減につながらなければ成り手もないという実態も考えて非常に有効な方法という認識を持ち、資料の内容で18日の校長会に導入のお願いをしたところです。

4ページに例示しましたが、今後7年間の暦のパターンで最低限、2日の休暇取得で4日又は5日連続の休校日が設定できるということを示しました。本市は土曜授業を行っていますので、4時間と3時間45分を組み合わせると1日の振替を取ることが可能となります。プラス有給を1日取得すれば4連休・5連休が可能ということで具体的な形を示しながら例示をしました。いずれにしても年末年始の6日間と比較して夏休みは学校を閉めないということで誰かしら残っていないとだめだと、それで残る先生は教頭先生が多いただろうということがありまして、今回提案させていただいたのですが、そうすると有給休暇を1日取るということは強制的に取ってくださいということにもつながりますので、ある意味では労働者の権利で強制はどうかということで難しい部分もあったのですが、趣旨としては校長会に理解していただいて各学校に持ち帰って最終的に決めましょうという話になっていますので、情報提供させていただきます。

次に、夏休みの学校図書館の利用状況についてです。資料5・6ページになります。今年度の利用人数は213人と前年夏休みに比べて7割増と結構伸びていました。冊数は225冊で前年比25%増と人数には比例していませんが、図書室には友だちと一緒に来て学校司書の方と話をしながら本を見て、そのまま借りないで帰るといったパターンなのかなと推測をしています。今年は幌別小学校と鷺別小学校に学校司書の発案でALTにも声を掛けて、読み聞かせとコミュニケーションを図るために初めてALTを呼んだということで、凄く盛況だったようです。幌別小学校に来ていた同伴のお母さんは今までやっていたのですかと聞かれたので、初めてです。冬休みもやってくれるのなら是非とも来たいということで、非常に評判が良かったということで他の6校にもALTの活用を促して、冬にはALTは長期休業中になると旅行だとか家に帰るだとかがあるのですが、日程を確保できる範囲の中なるべく同じような形の中で対応したいと考えていますので情報提供させていただきます。以上報告を終わります。

○武田教育長 いま情報提供6点ありましたが、何かご質問ありますか。

- 赤井委員** 図書館の開放の日程はこれを見ると3日間の学校と1日の学校と2日間の学校があるのですが、何か取組みたいなものはしていなかったのですか。
- 田中総括主幹** 基本的には最初の試行のときの動きと同じく1日・2日は必ず設定してくださいと、3日は1校しかないのですが、基本的に設定としては2日くらいかなというのは、休み期間が25日くらいなので中間と1週間ごとに設定すれば、1週間ごとに返却・貸し出しができるということで、2日くらいがいいというところで、あとは学校の実情に合わせてお願いしています。それで幅がある形となっています。学校司書もお子さんがいる方もおりますので、それで2校担当していますので、そこで2日くらいは必ず取ることになりますので、その辺を踏まえて調整をしているのが実態です。
- 武田教育長** A L Tの活用もできるようになればいろんな意味で図書館の開放と合わせた事業も企画できるかもしれませんね。
- 田中総括主幹** ちょうど長期休業でA L Tもちょっと時間が空くという課題があったので、まずはこの取組をすることでその時間が多少解消するのでそこは必ずほかの学校もやれば当然その課題も無くなってくるので。
- 武田教育長** あと何かありませんか。
(「ありません」の声あり。)
- 武田教育長** それでは情報提供につきましてはこれで終わりたいと思います。以上で事務局からの情報提供は終わりますが、昨日、一昨日と稚内で北海道都市教育委員会連絡協議会が行われました。そこで分散会というのがございまして、テーマは「学校と、家庭・地域との連携事業について」、各市との情報提供、意見交換ということでございましたので、それぞれ教育委員が違うグループに所属をしながら意見交換をされてきましたので、その辺の様子を出席された委員の皆さんから簡単にお聞きをしたいと思います。まず赤井委員からお願いします。
- 赤井委員** 討議のときの中身ということで、うちのグループは7・8人でしたが、地域の方の発表を聞くと学校と家庭、地域というよりもコミュニティ・スクールという言葉のところに意識をしながら発言されている部分があって、しかもそのことについて進んでいないというか、始まったばかりというところが多かったものですから、それで司会の方はどちらかというコミュニティ・スクールという言葉を意識するより家庭や地域との交流というか、そういう部分について出し合ったらどうですかと、そういうところから考えていこうと話を進めました。その中で話題にな

っていたのは、ある市の教育委員から家庭や地域との交流というか、一体となって進めている内容について、いわゆる子どもの貧困というか、そのことについて、子どもの非行とかに関わっていわゆる市や学校や地域、更には看護師というかそういう人たちを含めて話し合いを進めているということで、それに関わって参加者の人たちが学校サイドというよりもいろんな仕事を持っている方がいて、それぞれの立場でそういう子どもを地域で見守っているということで話し合いました。そういう子どもたちが地域にいれば、どういうふうになればその子どもたちを支援していけるかについて話し合いました。私は学校にいましたので、学校サイドでは入学前からそういう子ども達については昔、就学指導委員会というのが学校にありましたが、今は名前が変わりましたが、そういう形で見守ってきたので、そういうことも合わせて考えてもらいたいということ、私はそのことについて、地域のことで言ってしまうと学校は学校で見ているところがあるので、その辺が気になって話をしました。そのことでかなり長い時間話をしました。やはりほかの地域でコミュニティ・スクールの部分で入っていけないから話し合いの議題もその辺が出しにくかったのかなど、そういうことで時間が無くなりました。以上ですね。

○垣内委員 私たちも8名のグループで協議をいたしました。1人2分ずつ自己紹介を兼ねてそれぞれ市の取組状況をお話してくださいということだったのですが、皆さんの思いが強く2分×8人が40分くらい時間を取ってしまったということで討議の部分が絞り切れなかったとっております。前回の教育委員会の際に野崎参与の方からコミュニティ・スクールの現状の説明をいただきまして、小野島さんも資料を作成していただいたということで、そうしたところに目を通していただくことで私の方でやはり学校が5日制になった時から今までのコミュニティ・スクールに至るまでの登別市の取組、そういう下地があったからこそコミュニティ・スクールにスムーズに移行できたというお話をさせていただきました。昨年度2校、登別中学校区と西陵中学校区でスタートしたということをお話して、今年度は5つの中学校区でスタートしておりますということだったのですが、まだ全体の中では登別市のほかには1カ所くらいでした。後はこれからどうしたらいいというところで戸惑っているというか、マイナスのイメージ、教員の方の負担が多くなるのではないかと、何かそういうところに意識がいつている地域が多かったように思います。登別市は校長会、教頭会、それから地域と先ほどいいましたコミュニティ・スクールの前段階での地域の方々との連携もスムーズにいつているところなので、そうい

うところは比較的少ないように見受けられるというお話をさせていただきました。昨年コミュニティ・スクールを先行導入いたしました2つの地域はどういう規模のところですかという質問がありましたので、登別と西陵ですから生徒の規模としてはそんなに極端に多くないところだなと思ったのですが、やはりそういうところからスタートするのがスムーズに行くのかもしれないということで参考にさせていただいたのかなあと考えております。それからやはり赤井委員と同じように子どもの貧困の話も出まして教育委員会としては子ども食堂がいろいろ話題になって取り組んでいる地域もありますけども、そこは教育委員会としてはなかなか入っていけない、そこをどのようにして子ども達の貧困の対策を地域の方にさせていただきつつどのように解決に向けていくのかという発言が多かったように思います。なかなか子ども食堂というかその貧困の部分というのは難しい。まだ解決策が見つからない状況なのかなと私個人的にはだからといってそこをケアすれば、例えばお食事をケアすれば家庭でなかなかスムーズに食事をとることができないそこを子ども食堂でケアすればいいのかという問題でも無いように思います。それすることは勿論大事なことなのですが、その陰にある部分根底にある部分からしっかり解決に向けていかなければ子ども食堂を作ったから地域にそうゆうものがあるからよかったではないような気がしたのですが、今回の分散会の交流を基に私たちの地域の学校と家庭と地域の在り方、学校の在り方というのをいろいろと見直すきっかけとなったと考えております。以上です。

○森口委員 やはり同じように2分くらいで各市の状況を話してくださいということで自己紹介方々資料をいただいたものに基づきまして登別市のコミュニティ・スクールについて話させていただきました。私の班は8人のうち札幌市もいましたし苫小牧市、赤平市もいました。最初は赤平市の女性の委員さんからの発表でした。もう人口が減って小学校1つ中学校1つとっていました。それから札幌市みたいに190万人の人口で、札幌の委員は弁護士をされている方でやはり学校でもパワハラだとか、父兄からの問題だとかに対応できるような形で、大きな都市は1人くらい弁護士を入れているような学校もあります。例えば室蘭市なんか1人くらいは入っていると思います。苫小牧なんかは非常に長い都市で東と西じゃ全然感じも違いますし、小学校1校から中学校3校くらいに分かれていくところもあるだとか東と西じゃ全然違います。同じ都市でも全然内容が違うような温度差があるようなことを聞かせてもらいました。そんなようなことで大変同じ道内といいましてもや

はり地域やら人口によって学校のいろいろな違いや差があるのだなあと聞かせていただきました。札幌ではこのような資料を児童や家庭に配っているものをいただいたのですが、それを今日持ってこなかったのが今度何かありましたら参考に持ってきたいと思います。すいません。

○武田教育長 私の部会でのお話をさせていただきます。私のところは旭川の教育長が座長を務めまして、やはり8市くらいの構成でした。ほとんどは教育委員でしたけどもこの中に三笠市がおりまして、三笠市が最初に北海道でコミュニティ・スクールの名乗りを上げたということで、平成23年に手を挙げたと。今も活発に続けてはいるのだけでもなかなか少子高齢化ということで学校ボランティアの確保が大変だと。高齢化で。そんなことがありました。ただ、来年、三笠は全国のコミュニティ・スクールの研究発表大会をやるということで、今それに向けて600名の会場しかないのだけでも今までの事例を見るとそれを超える人が参加をしているようなことがあるので頭を痛めていますという話がありました。大体どこの地域も、昨年ですか国がコミュニティ・スクールを努力義務と位置付けた段階で教育委員会では検討に入っていると。既に三笠、私どものところでは釧路、恵庭等々は着手していると。それからこれからやろうとしているところは士別であったり、或いは芦別であったり、紋別というところですけども。芦別や紋別はまだまだコミュニティというより、今までのPTA活動で学校支援の活動をしっかり充実させていくかというようにことでした。ですから登別の場合は規模的にもさつき森口委員がおっしゃられたように大きい都市ならあるように小学校が2つの中学校に行くというようなことでなかなか難しい環境もあるので、先に小中一貫をやって中学校区ごとに体制を整えながらコミュニティ・スクールに入るところもあるのでもう少し時間がかかる。全体でやるには、旭川もそういう事例でした。ユニークに進んでいるというのは恵庭のような教育環境が整っているところはいろんな事業をやっています、その中に1つ「赤ちゃん登校日」なんか20組くらいの赤ちゃんを保護者同伴で学校に、親子を学校に呼んで、そして学校で子どもたちと交流する。そのことによって子どもたちの意識にどういう形で効果があるかはまだはっきりしていませんけど、中学校ですね。中学校に入れて触れ合いをする。そのことによって子どもの育ちだとか、そういうことに興味を持ってもらうというか。そんな取組をしているのでそれをもう少し充実させていきたいということ。それからあとどこの地域でもやっているのは通学合宿。やっぱり3泊4日とか、或いは4泊5日もありました。

実はうちも4泊5日でやっているのですよと話しまして、これもやっぱり場所によってボランティアの方が確保できなくてずいぶん苦勞されていると、芦別なんかも多分研修施設みたいなところを活用している。それにしてもお手伝いの人が少ないということが悩みですというようなお話がありました。ただいずれにしてもコミュニティ・スクールのような地域とともにある学校づくりとか、或いは学校と地域が一体で取り組む取組というのは義務付けられたけど、そのうち義務が外れて全部がやらなければならない。そんな時代になるのだということがありますから前向きに取り組んでまいりたいということです。私のところはそんな感じでした。

○森口委員 先ほど言い忘れましたけど、やはり一番問題になっていたのは地域でお手伝いして頂いている方の高齢化です。高齢化で後を継いでくれる方がいないというのと、中学生をボランティアというか手伝いというか高校生になるとちょっとあれです。中学生がそういう点では一番お手伝いをしてくれるということで、中には中学生を教育してもらってというふうに行っているところもありますね。

○垣内委員 1点訂正なのですが、私先ほど登別中学校の地域と西陵中学校の地域をコミュニティに結び付けて話をしてしまいましたが、これは小中一貫の方でした。申し訳ありませんでした。

○武田教育長 小中一貫型のコミュニティ・スクールということで。

○赤井委員 小中一貫の方は努力義務になっているのですか。

○武田教育長 これは中教審の中で、もう既に連携一貫教育というのは15年くらいに打ち出されてそれをずっと進めてきています。そういう中で2年くらい前の中教審の中でこれからの教育の在り方として一貫教育が必要だということが提言されています。ですから国もその方向に沿って一貫教育ということで進めています。ですから連携はちょっと前の形で今はもう一貫教育。最終的な狙いはカリキュラムを9年間1本という取組になっていくと思います。もっとも当然のことですが。小学校教育も中学校教育も結局は9年がつながっていく話で義務的には学習指導要領のとおり取組めばつながっていくことになっているのですが、やっぱり長期的な見方をしようと。小学校3年だけでなく小学校6年だけでなくもっと長期的な見方の中で子どもを育てていくことが必要でないかという視点だと思いました。

○赤井委員 うちのところでは、最後の司会のまとめとしてコミュニティ・スクールにしても小中一貫にしても義務化になってくるので各市でもやらなきゃダメなんだということのまとめでしたから、皆きっとやらなきゃと思って帰ったと思います。

○武田教育長 そうなると思います。

○垣内委員 やはりまだ小中連携のところに留まっている市も多いように見受けられました。一つの市では確か中学校の先生が5・6年生の方に入ってくるという交流も既にしている地域もありました。

○武田教育長 いろいろ努力されていることは意見交換の中でも見えました。旭川市が30人以上の学級を皆30人以下学級にしようということで、市が雇いあげた先生を入れているのですね。それで30人以上の学級はないのです。編成上は。それに係る単独経費は1億だそうです。どこまで続くかという話を教育長がしていました。今時点で。少人数学級というのが課題になってずいぶんありましたけどもそんなことです。あと事務局から今のことで意見等があれば。

○野崎参与 子どもの貧困が云々というあたりで、先ほど子ども食堂、抜本的な改革・対策上はということで・・・。

○垣内委員 それ個人の考えです。

○野崎参与 はい。放課後学習云々もそれは根本のところにはいけない、いかないまでもそういう学習の場というのはこのコミ・スクの中でも提供していけたり、それは子どもの貧困に直接向かっている対策ではないのですが、結果的にはそういうような支援にもつながっていきますよねっていうような答え方は議会の中でもさせてもらっています。そのあたりのところは教育だけの問題でも無いというところで。

○武田教育長 当面は子どもの貧困、或いは貧困の格差は、いわゆる就学支援の視点からのことしかないです。国の大綱はもっと広いものがあるのだろうけども。我々議会の中では就学支援をもうちょっと厚くするとか、配慮してくれとかそういうところが要望の対象になっています。あとよろしいですか。

(「はい」の声あり。)

○武田教育長 それでは昨日の連絡協議会の情報提供はこれくらいにしたいと思います。最後に9月の教育委員会の開催日について予定したいと思います。次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

○橋場教育部次長 9月の教育委員会につきましては、最終週の木曜日28日はいかがでしょうか。

(「大丈夫です」との声あり)

○武田教育長 それでは、事務局より提案のありました9月28日木曜日で決定したいと思います。16時30分から市民会館小会議室で開催することとします。詳

細につきましては、後日事務局よりお知らせください。以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。